

■米国：MISO の研究、CPP により風力と太陽光が大幅に増大と予想

広域系統運用機関ミッドコンティネント ISO (MISO) は 2016 年 3 月 16 日の計画諮問委員会の会合で、コスト低下により風力や太陽光が石炭火力のリプレイスとして採算レベルにのり、米国中西部の MISO 管内での CO2 排出が急激に減少しうるとの研究結果を発表した。この研究はクリーンパワープラン (CPP) についての中期的な分析の一部で、地域の発電と送電への影響について調査したものである。再エネを導入しやすいよう送電系統を拡張していくケースでは、2050 年に風力の発電設備容量が 2 億 1,700 万 kW、太陽光の発電設備容量が 1 億 2,500 万 kW に達すると分析している。